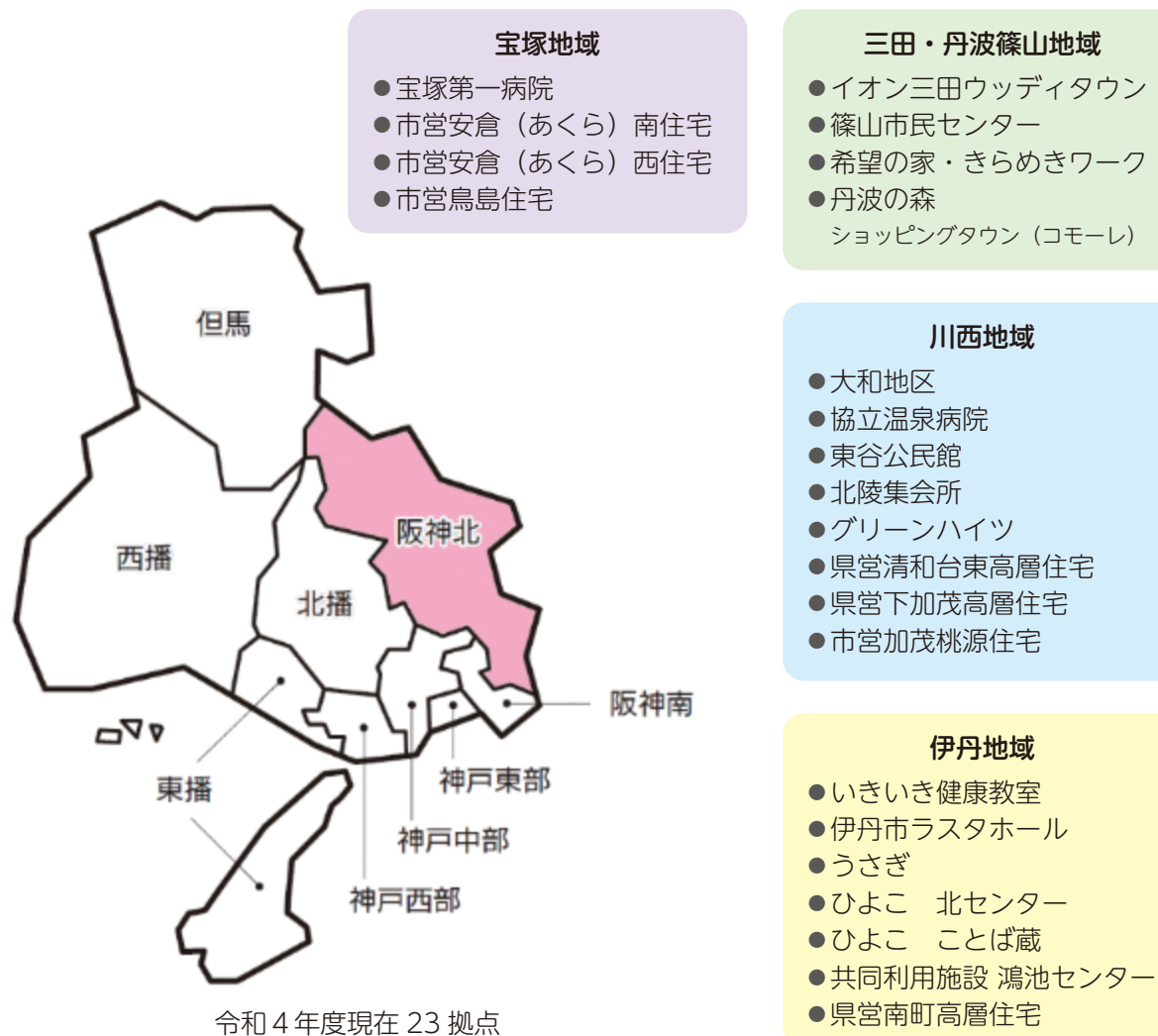


阪神北支部

阪神北支部では、丹波・丹波篠山・三田・宝塚・川西・猪名川町・伊丹の地区に活動拠点があります。コロナ感染拡大のため前年に引き続き、拠点活動も出前隊活動も計画通りには実行できませんでした。

委員会としては今年こそは活動できるように、各拠点と調整したり、活動方法を考えたりして、今までとは違った形で、感染予防体制を整えた状態での活動再開ができる方法を検討してきました。

平成 17 年度から拠点活動を開始した「まちの保健室」です。拠点も出前隊も順次増加してきました。



学校の保健室のように気軽に、自分の身体のこと、心のこと、妊娠・出産について、介護についてなど地域の人が不安や悩みを、気軽に相談できる場を提供しようと活動してきました。ボランティアが病院、施設に所属し、勤務していることで生活指導・服薬指導・健康に関する新しい専門知識があり適切な指導ができることや、看護職として相手を尊重したり、受け止めたり、傾聴することができることを強みにしてきました。看護職自身も、地域に出向くことで、その生活実態や社会資源を解ることができ、看護にフィードバックできるという利点もあります。

「まちの保健室」を体験して見えてきたことは、血圧・骨密度測定だけを目的に来られた人も話をしているうちに、日常生活のことや不安に思うことを話されます。そういった不安や心配を気軽に相談できる場として、また、特に問題があるわけではなくても、話をされる内容に支援と適切なアドバイスができることもあります。活動によって、ボランティア同士のつながりができ、学びの場にもなっています。まだ活動に参加していない方たちにこの活動を伝えていきたいという思いがあります。

支部の「まちの保健室」活動を支えるものとして、コーディネーターが協会と連絡を取りあって、拠点・出前隊の地域との調整と、派遣するボランティア・機材等の調整を図ることでスムーズに活動ができます。多職種のボランティア参加を計画することで、より幅広い深い指導ができるようになってきています。ボランティア自身も来所者との交流、「ありがとう」「また来ます」の言葉や、笑顔でやりがいの後押しされ、自身の成長の場になっていることに気づき、それが活動源になります。

支部においては、「まちの保健室」活動の未経験者が多いので、コーディネーターとして、情報を提供し、委員会の交流で施設間の情報交換を促進していきたいです。また、多くの看護職に「まちの保健室」を知ってもらい、ボランティア活動に参加してもらえるようにしていきたいと思います。さらに、コロナ禍でも安心して活動ができる体制作りが出来ればと思っています。



川西地区 コロナ禍前の県営下加茂高層住宅での活動の様子